

第3章 川崎区の未来のすがた

1) 川崎区のまちづくりで大切なこと

川崎区の現在のすがたや課題の整理などのワークショップでの議論の中から、まちづくりの方向性が見えてきました。

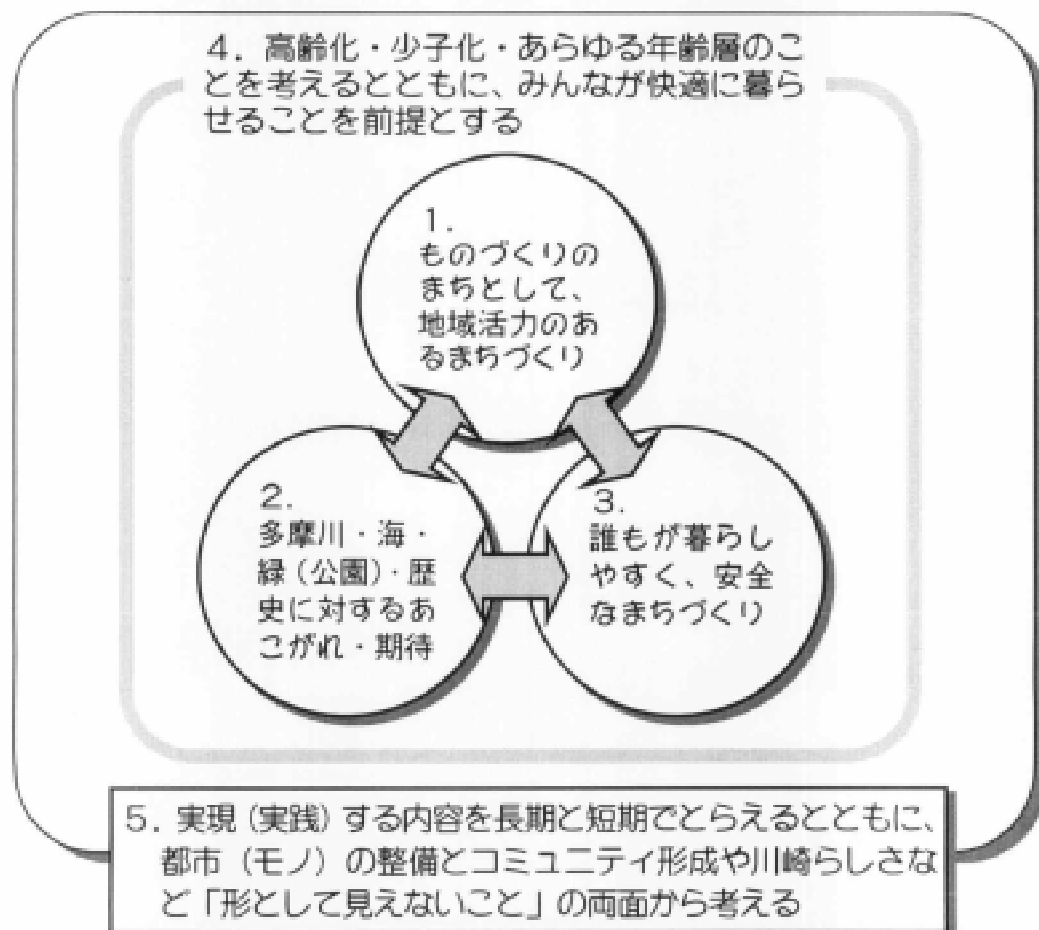
具体的に議論したことは、これまで川崎を支えてきたものづくりのこと、市民から遠い存在となっている海（臨海部）や多摩川など親水空間へのあこがれ、段差がない道路、みんなで使える公園などひとつひとつが大切なことです。これらのことは、これからの川崎区をより良くするための提案として盛り込むこととします。

一方で、今日、日本全体で進行している高齢化・少子化、行政の財政困難、環境問題、産業育成や「人づくり」といった形として見えないことも視野に入れて検討することが大切であると考えました。こうした視点は、中間報告会でも、会場からの発言や意見シートでもあげられていますが、区民提案の中に書き込むことが私たちの責任でもあると考え、中間報告会の意見もワークショップ1回をかけて議論しました。

こうした私たちで共有した「大切なこと」をまとめました。



大切なことの関係



川崎区のまちづくりで大切なこと

1. ものづくりのまちとして、地域活力のあるまちづくり

川崎区の歴史を振り返ると、昔からものづくりによって成り立っていたまちであることが確認されました。先人達のものづくりに対する思いは、私たちに引き継がれ今後も川崎区発展のためには不可欠なものです。「ものづくり」は、近年の重化学工業だけではありません。昔は桃、梨、海苔など、今ではハイテク、人にやさしい、地球環境にやさしい分野の産業もあります。こうした産業も含めて、地域活力のあるまちづくりを進めることが大切です。

2. 多摩川・海・緑（公園）・歴史に対するあこがれ・期待

川崎区は川崎市の中で唯一海に面した区ですが、臨海部への交通は不便です。また、多摩川にも面していますが、内陸側の区のような多摩川のレクリエーション空間はわずかです。こうした海と多摩川などの自然のほか、川崎大師・旧東海道といった歴史の財産も多くあり、これらを活用することがとても大切です。

3. 誰もが暮らしやすく、安全なまちづくり

私たちは、川崎市の商業の中心である川崎駅周辺と現在工業地となっている臨海部の間で生活しています。誰もが暮らしやすいまちづくりをしていくためには、地域間の連絡がよりよくなることや身近な商店街の活性化が大切です。

安全なまちづくりには、歩行者が安心して歩けることや防災について行政と区民が連携して進めていくことが大切であることを確認しました。また、誰もが暮らしやすく、安全なまちづくりは、長期的に捉えれば、まちの活性化や人口減少の歯止めにもなると考えました。

4. 高齢化・少子化・あらゆる年齢層のことを考えるとともに、みんなが快適に暮らせることを前提とする

ワークショップを進めていくうちに、まちづくりを考える上で、高齢化・少子化の問題やバリアフリーについて考えていくことが大切だと感じました。特に川崎駅前、非常に使いづらい状況です。幹線道路も放置自転車や段差があったりと歩行者にとって危ない状況です。こうした問題を解決するためには、まちづくりにおいてあらゆる人の立場にたって考えることが大切であることを確認しました。

5. 実現（実践）する内容を長期と短期でとらえるとともに、都市（モノ）の整備とコミュニティ形成や川崎らしさなど「形として見えないこと」の両面から考える

まちづくりへの提案は、これまでも「区づくり白書」の中でやってきました。これからのまちづくりでは、長期と短期で取り組むことを分けて考えることが大切です。また、公園・道路整備といった「モノ」の整備だけではなく、人づくりやコミュニティ形成、川崎らしさとは何かという「形として見えないこと」の両面から考えることが大切だと考えました。

●コラム：5つの「川崎区のまちづくりで大切なこと」の解説

川崎区のまちづくりで大切なことは、ワークショップの中で議論した内容をもとに整理しました。5つの「大切なこと」ごとに、私たちメンバーの意見や中間報告会での意見を整理したものを以下に列举します。

1. ものづくりのまちとして、地域活力のあるまちづくり

- ・産業が発展するニュアンスを残したい。
- ・日本一の工業都市であることをアピールする。そのため防災と環境に特化する。
- ・「くずもちとキムチの川崎」産・食・遊の共栄する日本一活力ある川崎をアピールしたい。
- ・ものづくり産業の再構築のためにビジョン、イメージの確立
- ・人間にやさしい産業や産業育成（ソフト系）が大切
- ・川崎区は大規模工場、町工場によって栄えた街です。そこで働いていた職人さんの技能が技術の進歩によって消えていった職種があります。その技能を小さな博物館を造って、工具など展示したり、できればその当時の作業現場を復元し、作業者の服装などで仕事する、そこで元の職人さんと体験したり当時の職人さんの話を聞いたりする場が必要だと思います。川崎区に造ってこそ意義があり、町おこしになると思います。
- ・川崎区の街づくりのためには、第1に大企業（産業）のあり方、第2に国政のあり方を無視して実現できない。
- ・21世紀は情報社会に突入する。土地のない川崎を活かす産業を探すべし
- ・将来に向けて、子供が川崎の中で働ける場所づくりが必要ではないか。

2. 多摩川・海・緑（公園）・歴史に対するあこがれ・期待

- ・川崎区は唯一海に面した区、しかしその海が市民に開放されていない。臨海部に砂浜、海水浴場、海浜公園等を
- ・多摩川は、山側の区のように河川敷が整備されておらず、工場の裏側となっている。サイクリングロードを浮島までつなげて欲しい。
- ・歴史的遺産を活かすまちづくり。史跡を活かしてまちを活性化する。
- ・海浜公園。海はもともと市民のもの、企業のものではない。本来の市民のもとへ。
- ・コンクリート護岸ではなく、人が楽しめる所に。
- ・身近な公園こそ大切。夕飯の支度時におじいちゃんが孫を連れていく大事な所
- ・完成する前に住民が緑の開発に参加する

3. 誰もが暮らしやすく、安全なまちづくり

- ・川崎市の人口は増加しつつある中で、川崎区は人口の減少が現れている。産業の空洞化と街づくりをどうとらえるか。商店だけではなく、マンションなど居住地域まで将来空き家が増える。
- ・勤労者が減り層のバランスが崩れているのが問題。→住みよい街づくりを長期で考える。
- ・すみたい街。魅力づくり
- ・ブルーハウス、ホームレスに対する対策はまちづくりに入れられるか？（公園占有）
- ・環境問題（大気汚染公害、道路公害、川崎中心部のゴミの山、NO2減少対策）を入れる。
- ・自転車問題、エコ社会（モノレール等）、ミニ電気バス、電線の地下埋設、都市美観、福祉、子育て支援、防災ネットワーク、コミュニケーションたまり場のあり方、行政との協働、区民同士の協働。
- ・子供が遊びを失っているから、これらを提案して欲しい。

4. 高齢化・少子化・あらゆる年齢層のことを考えるともに、みんなが快適に暮らせることを前提にする

〔高齢化・少子化〕

- ・ 少子・高齢化に関して施設はお金をかけず、あるものを活用していく。
- ・ 人口構成の変化に対応した街づくりをソフト面で考える必要がある。
- ・ 年齢を対象とした街づくり。
- ・ 少子高齢化社会に向けての取り組み（①高齢者・障害者に対する問題、②いじめの問題）
- ・ 女性や若い人の意見を吸い上げるためには、既存の集まりを活用し、出張して対応することが必要。

〔福祉（バリアフリー）〕

- ・ バリアフリーについて、具体的な推進策があると良い。特に駅前を今後検討していく。
- ・ 高齢化や福祉が進む中、バリアフリーの問題を考えて下さい。あたたかい川崎の街を
- ・ 人の集まるところは歩く人を優先にして欲しい。
- ・ 駅（バス）を利用する為の（エレベーター）エスカレーターの整備
- ・ 人が集まる駅前の歩行者動線の確保と駐輪場施設の整備
- ・ 川崎駅東口駅前広場を真ん中で平地を横断して渡っていきたい。現在は車優先だが、人優先にしてほしい。
- ・ 白書で提案したのに、全然進んでいない。（車椅子での移動など）
- ・ 「あたたかい川崎の街を」に、「ホームレスを何とかして安心して暮らせる」は少し変。
- ・ 弱者にやさしい道路（歩行者が快適に歩けるまちづくり。ユニバーサルデザインの視点を盛り込む）
- ・ バリアフリーはあたりまえ

5. 実現（実践）する内容を長期と短期でとらえるとともに、都市（モノ）の整備とコミュニティ形成や川崎らしさなど「形として見えないこと」の両面から考える

- ・ ビジョンと各計画を評価する方法が必要。（あるべき姿との比較）
- ・ 早く実行しないと計画が無意味なものとなる。優先順位づけが必要。
- ・ 未来は“人づくり”—未成年者を入れることが必要。
- ・ 青少年に対する施策がない。
- ・ 議員と住民の対話システム、分権型社会と区役所改革
- ・ 川崎市は各区に都市機能を明確に多核分散した総合的にバランスのとれた都市を目標とする。
- ・ 東京・横浜にはない個性化が必要である。市民（住民）の提案は各区とも同じような内容となる。
- ・ 少子高齢化、ホームレス、リストラの問題は社会保障政策の担う部分大きい。
- ・ 自分たちの町を自分たちで考えよう。（行政にまかせない。）
- ・ 川崎の都市計画マスタープランで解決することができないものもある。都市計画マスタープランでやるべきことと、そうでないことを分ける必要がある。

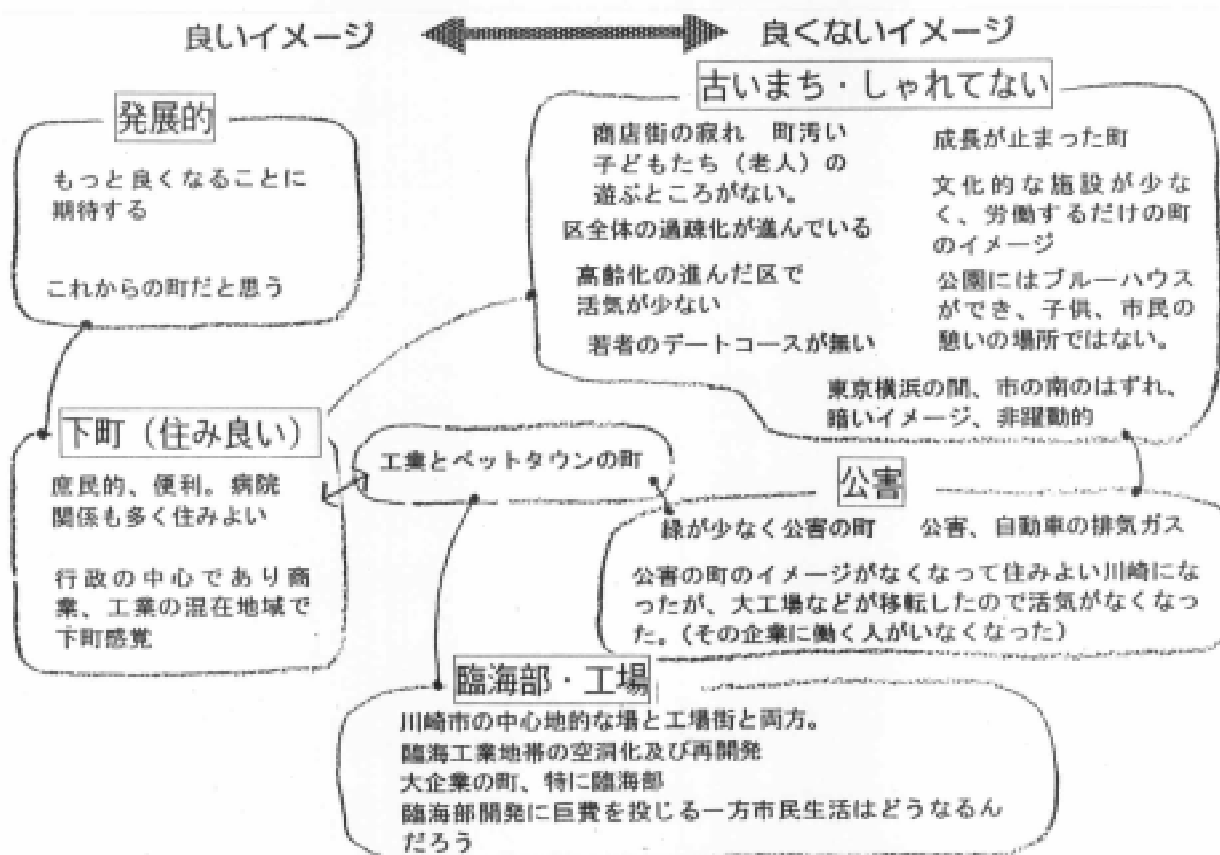
●コラム：川崎区の現在のイメージと将来のイメージ

第1回のワークショップでは、まず、川崎区の現在のイメージと将来のイメージをカードに記入し意見を出し合いました。それを整理したものが以下の図です。ここでの意見は、前に示している「川崎区のまちづくりで大切なこと」やこの後に示す「キャッチフレーズ」や「まちづくりの5つのストーリーと具体的方針」を考えるための素材にしています。

〔現在のイメージ〕

良いイメージとしては、庶民的、便利といった意見があがっています。良くないイメージでは、区全体の過疎化、高齢化が進んでいる、公害という意見があがっています。

川崎区の現在のイメージ



[将来のイメージ]

個別のイメージをみると、多摩川・臨海部などの自然回復、住みよい住宅地などの意見があがっています。もう少し抽象的な表現では希望あふれるイメージのキーワードがあがっています。

川崎区の将来のイメージ

